

三郷学で構想する まちづくりワークショップだより

第4号

平成22年
10月29日発行

- ◆〒341-8501 埼玉県三郷市花和田 648 番地 1
- ◆電話：048-930-7763 / FAX：048-953-1169
- ◆ホームページ：http://www.city.misato.lg.jp/
- ◆三郷市 企画総務部 企画調整課

「第3回三郷学で構想するまちづくりワークショップ」！

〈三郷学講座カリキュラム〉〈三郷学検定〉

三郷市自治基本条例や第4次三郷市総合計画の内容を実現するための基盤づくりの政策として「三郷学」を位置づけています。10月1日（金）は、第3回目のワークショップが開かれました。

はじめに、市の事務局から、これまでのワークショップの内容や全体のスケジュールについて説明をした後、本日のワークショップの予定を説明しました。

- ・ 来年2月まで続くこのワークショップでは、最終的に①政策形成ハンドブック案と②三郷学講座カリキュラム案を作成する。
- ・ 本日は、前回参加者の希望をとって決定した、政策形成ハンドブック案を作成する班と三郷学講座カリキュラム案を作成する班に3班ずつ分かれ、それぞれのグループでファシリテータ、発表者を選出し、その後班ごとに意見をたくさん出し合い、最後に全ての参加者の前で各班の議論の内容を発表し合う。

次に、今回のワークショップ全体を通じてお手伝いいただいている龍谷大学法学部の土山希美枝准教授から、「くつなぎ・ひきだす>ファシリテートのテクニックちょっと出し」というテーマで、ワークショップを開催する前に次のようなアドバイスがありました。

（土山准教授の説明）

前回のワークショップで実践したファシリテートの必要性を再確認し、「対話・議論」をする際のお作法を思い出してください。

「対話・議論」の作法

- ・ 4つの場面～アイスブレイク、発散、整理、合意形成
- ・ 「あなたの話を聞いています（あなたがここにいることを歓迎します）」ということを態度で示す。
- ・ 話す方は、長い話は程ほどに。伝えたいことを忘れられない長さで。
- ・ 相手が「疎外」を感じないように。～内輪言葉とカタカナに用心！



土山准教授

次に、それぞれの検討するグループに分かれた後、それぞれの班でファシリテータ、発表者を選出しました。

三郷学講座カリキュラム案を作成する班では、KJ法を使用し、①三郷学講座カリキュラム検討事項として、①主催者、②参加者（どういう人に来てもらいたい）、③参加費、④カリキュラム（時間のある人、あまり時間のない人など）、⑤今の三郷にとって学ぶことが必要なもの、自分だったら何を学びたいか、⑥他と連携の必要なこと、⑦その他について検討しました。



〈ワークショップの風景〉



さらに、②三郷学検定検討事項として、①主催者、②参加者（どういう人に来てもらいたい）、③参加費、④段級、⑤テキスト（自治基本条例・総合計画・市政概要2009・広報みさとなど）、⑥今の三郷にとって何を知ってもらうことが大切か、⑦問題集、⑧活用方法、⑨その他について検討しました。

具体的な検討内容は、12月に発行予定の「まちづくりワークショップだより」でお知らせします。

用語解説

- ・アイスブレイク ⇒ 話し合うきっかけをつくるための簡単なゲームや運動などのこと。
- ・KJ法（ケージェイホウ）⇒ 考えをカードに記入し、カードをグループごとにまとめ考えを整理する方法。

